

勿論單純ではなりが、其の主なるものは蓄貨の存在に依つて促がされたる生産の過度の縮小である。此の場合金利や物價の遅れが影響を與へることは前の場合と同様である、此の二の場合には更に價格を通じて行はるゝ打算に於て合理的錯誤に陥らしめて、其の勢を一層助長する。尚ほ景氣変動の循環運動に対しては、現実に之れを可能ならしむるものとして金融側に於ける作用を無視してはならぬ。即ち上昇期に於ては信用供給の弾力性が行過ぎ、下降期に於ては信用收縮が行過ぎることから或は過度の生産擴張を可能ならしめ、或は過度の生産縮小を余儀なくせしめる。

景氣変動の原因が何であるかに就ては種々なる學說がある。其の主なるものは太陽說 (*Sun spot theory*, - W. S. Jevons) や心理說 (*Psychological theory*, - A. C. Pigou) 等の如く、非經濟的事象に原因を求めんとするものと、金融說 (*Monetary theory*, - J. G. K. Wicksell) 過少消費說 (*Under consumption theory*, - R. Hilferding) 過剩生産說 (*Over production theory* - A. Aftalion) 等の如く經濟生活自体に求めんとするものとの二つがあるが未だ定説

と云ふべきものは有り。

第八章 國民經濟統制

ノト 参照

(終)

昭和十三年六月十五日印刷

昭和十三年六月二十日発行

京都市上京区小堀池町三七

著作人 太田 義夫

京都市上京区河原町通荒御上、小堀町三五

印刷兼
発行人 長谷川 六郎

京都市上京区河原町通荒御上、小堀町三五

発行所 恒 星 社

電話上、一九七九番

Blank page with faint, illegible markings and a small mark on the left edge.



383
98